

令和5年度 学校だより 5月号 4月28日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 前島 潤

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

ツバメの子育て

学校長 前島 潤

夏を思わせる暖かな日が続いた4月。ツツジの開花の早さに驚きました。学校のプールには、たくさんのヤゴが暮らしていますが、羽化第1号はギンヤンマ。4月13日のことでした。自分の観察の中では早さの新記録。例年は4月の下旬頃です。

トンボの羽化と時を同じくして、南から渡って来たツバメたちが、裏庭のトンボ池の泥を取る姿が見られました。巣作りの準備です。今年も、商店街など、山元のまちで、ツバメの子育てが始まりました。



トンボ羽化大1号 (ギンヤンマ)

ツバメは4月から7月頃までの間に二回子育てをします。夫婦で子育てをしますが、ヘルパーと呼ばれている子育てを手伝うツバメもいるようです。私も観察をしていて、親ツバメ以外に巣を出入りするツバメを見たことがあります。このヘルパーについては、実際は手伝っていない、まだ産卵できない若いツバメが手伝っている、一度目の子育てで巣立ったツバメが手伝っているなど、説がいろいろあります。私は、巣立ったお兄さん、お姉さんツバメが子育てを手伝っているとしたら素敵だなと思いました。弟、妹たちを親と一緒に育てることで、大人になる準備をしているのではないかと想像してしまいます。

今年度は、コロナ禍で行うことができなかった縦割り活動が再開されます。1年生から6年生までの異学年グループを立ち上げ、一緒に遊んだり、活動したりします。まずは運動会。縦割りで座席に座り、縦割りでの全校競技も行います。秋には縦割り全校遠足も計画しています。

縦割り活動は、子どもたちの縦のつながりを強めるものですが、私が考えているツバメの子育てヘルパーの姿と重なることがあります。それは、関り、育てるものが育てられるということです。上学年の子どもが下学年の子どもに関わる中で、上学年の子にはリーダー性が育ちます。下学年の子たちのよき手本となる存在に成長していきます。特に6年生です。

今年度のスタートにあたって、子どもたちには、「つながり」を大切にしようと話しました。子どもと子ども。子どもと教職員。子どもと地域。コロナ禍でなかなか人と人がつながる活動ができませんでした。その「つながり」を取り戻し、強める一年です。

山元の子どもたちの素晴らしさが、縦にも横にもつながり、さらに輝きを増すことを、そして、その先頭に頼もしい6年生が立っていることを、今から楽しみにしています。

仲間が増えました ～1年生を迎える会～

19日(水)、1年生を迎える会を体育館で行いました。音楽に合わせた手拍子の中、1年生が元気に入場し、会が始まりました。進行は、運営委員会児童です。各学年より歌やダンス、プレゼントがありました。途中、山元小ニューキャラクター「やまもる」も登場し、楽しい雰囲気の中、1年生を全校で迎え入れました。

